

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより 第48回

田川で釣り糸を垂れる男と、
菓子を頬張る子ども



宇都宮点景

「宇都宮市宇都宮名勝繪葉書
第壹輯」と題された絵葉書帖があ
る。鱈皮模様の子出しが施さ
れた表紙がつけられ、絵葉書はミ
シン目で切り離せるよう加工され
ている。絵葉書の枚数は十枚。発
行元は記されておらず、その年代
も特定できないが、絵葉書に写し
出された風景から明治時代末期
ごろと推定できる。

綴じられた絵葉書は、順に「宇
都宮市街全景(其二)」、「宇都宮
市街全景(其一)」、「田川の風景」、
「八幡山の眺望」、「公楽園」、「鏡ヶ
池」、「七名水ノ一亀井の水」、「二
荒山の前景」、「招魂祠畔」、「寛
政三奇士蒲生君平の碑」。この中の
「公楽園」とは、のちの御本丸公
園のことである。絵葉書は全てガ
ラス乾板写真をコロタイプ方式で

印刷したもので、そのリ
アルさはオフセット印刷
の比ではない。

ここに収録されている
絵葉書の中で、本欄に
今まで登場してこなかっ
た二葉を、江尻九穂の
画文「望郷譜 宇都宮

三十八景」(梅園昌男氏所蔵)の
一文とともに紹介したい。江尻は
一八九一(明治二十四)年、宇都宮
市河原町で生まれた。尋常小学
西校(現西小学校)から宇都宮中
学校(現宇都宮高等学校)に進み、
故あつて富士山を描くため静岡県
静岡市に転居。遠地で宇都宮への
望郷の思いを画文に残した。描か
れた時代は江尻が青春を過ごし
た大正期にあたる。



八幡山から東方を望む。
大曾の田圃が広がる

一枚は「田川の風景」。どこの河
畔か今では見当もつかないが、麦
藁帽子を被った着物姿の男が釣り
糸を垂れる光景がのどかだ。その
後ろにはお菓子を頬張る二人の子
どもが立ち、上流には橋の欄干が
見える。堤防も築かれていない。
望郷譜「田川辺の秋」の一節には、
「田川は到るところに秀麗な風景
を見せていた。河岸の変化が結構
だった。所々に見る堰の趣きがい
かにも絵画的だった」とある。

もう一枚は、「八幡山の眺望」。
八幡山から東方を望んだ景観と
思われる。あたり一面どこまでも
水田が広がり、高層の建物が皆
無だったせいかな今よりも心なしか
空が高い。「ここは八幡山の東側
面だ。いい景色の所だった。眼下
に大曾田圃が見える。遠く白沢
辺りが紫に霞んでいる」(望郷譜
「八幡山」)。

名勝、旧跡とは、また違った趣
が感じられる宇都宮の風景だ。